

【別紙様式 9】

* 課題番号	個 07-101
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 2 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 小見山 道



所属・資格 松戸歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	咬筋抑制反射閾値に対する加齢の及ぼす影響			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Osamu Komiyama et al.	Clinical Neurophysiology/ The influence of psychological state on the masseteric exteroceptive suppression reflex and somatosensory function	120	2009年2月	Elsevier
Osamu Komiyama et.al	Clinical Neurophysiology/ Ethnic differences regarding sensory, pain, and responses in the trigeminal region	119	2008年10月	Elsevier

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年3月21日

日本大学 総長 殿

氏 名 村田 浩一

所属・資格 生物資源科学部・教授



下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	日本産鳥類および飼育下鳥類におけるバベシア原虫感染に関する研究																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者</li> <li>研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>村田浩一ほか8名</td> <td>第145回日本獣医学会学術集会</td> <td>飼育下のシロミキジに認められた <i>Plasmodium (Bennettinia) juxtannucleare</i> 感染</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>炭山大輔, 村田浩一ほか8名</td> <td>第145回日本獣医学会学術集会</td> <td>南大東島における鳥マラリアの分子系統と宿主転換</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>佐々木絵美, 村田浩一ほか3名</td> <td>第145回日本獣医学会学術集会</td> <td>国内の野鳥における鳥マラリアの感染状況および分子系統</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>石川智史, 村田浩一ほか4名</td> <td>第14回日本野生動物医学会大会</td> <td>神奈川県内で保護された野鳥の鳥マラリア原虫および <i>Leucocytozoon</i> spp. の感染状況</td> <td>2008年9月</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	村田浩一ほか8名	第145回日本獣医学会学術集会	飼育下のシロミキジに認められた <i>Plasmodium (Bennettinia) juxtannucleare</i> 感染	2008年3月	炭山大輔, 村田浩一ほか8名	第145回日本獣医学会学術集会	南大東島における鳥マラリアの分子系統と宿主転換	2008年3月	佐々木絵美, 村田浩一ほか3名	第145回日本獣医学会学術集会	国内の野鳥における鳥マラリアの感染状況および分子系統	2008年3月	石川智史, 村田浩一ほか4名	第14回日本野生動物医学会大会	神奈川県内で保護された野鳥の鳥マラリア原虫および <i>Leucocytozoon</i> spp. の感染状況	2008年9月										
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
村田浩一ほか8名	第145回日本獣医学会学術集会	飼育下のシロミキジに認められた <i>Plasmodium (Bennettinia) juxtannucleare</i> 感染	2008年3月																															
炭山大輔, 村田浩一ほか8名	第145回日本獣医学会学術集会	南大東島における鳥マラリアの分子系統と宿主転換	2008年3月																															
佐々木絵美, 村田浩一ほか3名	第145回日本獣医学会学術集会	国内の野鳥における鳥マラリアの感染状況および分子系統	2008年3月																															
石川智史, 村田浩一ほか4名	第14回日本野生動物医学会大会	神奈川県内で保護された野鳥の鳥マラリア原虫および <i>Leucocytozoon</i> spp. の感染状況	2008年9月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Murata, K., Itoh, K., Sasaki, E., Sato, Y., Kinjo, T., Amano, Y. and Nagamine, T.</td> <td>Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine / Avian piroplasm <i>Babesia</i> sp. isolated from crested serpent eagles (<i>Spilornis cheela</i>) in Yaeyama Archipelago</td> <td>13・1</td> <td>2008年3月</td> <td>Japanese Society of Zoo and Wildlife Medicine</td> </tr> <tr> <td>佐々木絵美, 村田浩一ほか3名</td> <td>日本獣医寄生虫学会誌/国内の野鳥における鳥マラリア原虫の感染状況および分子系統</td> <td>7・1</td> <td>2008年10月</td> <td>獣医寄生虫学会誌</td> </tr> <tr> <td>炭山大輔, 村田浩一ほか8名</td> <td>日本獣医寄生虫学会誌/南大東島における鳥マラリア原虫の分子系統と宿主転換</td> <td>7・1</td> <td>2008年10月</td> <td>獣医寄生虫学会誌</td> </tr> <tr> <td>浅香有希子, 村田浩一ほか5名</td> <td>日本獣医寄生虫学会誌/ロシアのコウノトリ幼鳥に認められた <i>Leucocytozoon</i> sp. の形態学および分子生物学的特徴</td> <td>7・1</td> <td>2008年10月</td> <td>獣医寄生虫学会誌</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Murata, K., Itoh, K., Sasaki, E., Sato, Y., Kinjo, T., Amano, Y. and Nagamine, T.	Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine / Avian piroplasm <i>Babesia</i> sp. isolated from crested serpent eagles ( <i>Spilornis cheela</i> ) in Yaeyama Archipelago	13・1	2008年3月	Japanese Society of Zoo and Wildlife Medicine	佐々木絵美, 村田浩一ほか3名	日本獣医寄生虫学会誌/国内の野鳥における鳥マラリア原虫の感染状況および分子系統	7・1	2008年10月	獣医寄生虫学会誌	炭山大輔, 村田浩一ほか8名	日本獣医寄生虫学会誌/南大東島における鳥マラリア原虫の分子系統と宿主転換	7・1	2008年10月	獣医寄生虫学会誌	浅香有希子, 村田浩一ほか5名	日本獣医寄生虫学会誌/ロシアのコウノトリ幼鳥に認められた <i>Leucocytozoon</i> sp. の形態学および分子生物学的特徴	7・1	2008年10月	獣医寄生虫学会誌					
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
Murata, K., Itoh, K., Sasaki, E., Sato, Y., Kinjo, T., Amano, Y. and Nagamine, T.	Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine / Avian piroplasm <i>Babesia</i> sp. isolated from crested serpent eagles ( <i>Spilornis cheela</i> ) in Yaeyama Archipelago	13・1	2008年3月	Japanese Society of Zoo and Wildlife Medicine																														
佐々木絵美, 村田浩一ほか3名	日本獣医寄生虫学会誌/国内の野鳥における鳥マラリア原虫の感染状況および分子系統	7・1	2008年10月	獣医寄生虫学会誌																														
炭山大輔, 村田浩一ほか8名	日本獣医寄生虫学会誌/南大東島における鳥マラリア原虫の分子系統と宿主転換	7・1	2008年10月	獣医寄生虫学会誌																														
浅香有希子, 村田浩一ほか5名	日本獣医寄生虫学会誌/ロシアのコウノトリ幼鳥に認められた <i>Leucocytozoon</i> sp. の形態学および分子生物学的特徴	7・1	2008年10月	獣医寄生虫学会誌																														

※ホームページ等での公開の (☑・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
平成 20 年度学術研究助成金一般研究 (個人研究)「琉球列島を水際とした保全医学のための外来病原微生物侵入モニタリング」へ発展。			
(その他)			

* 課題番号	個 07-104
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年 4月 30日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 増田 哲也



所属・資格 生物資源科学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	「風味良好なプロバイオティク乳製品」の開発に不可欠なプロバイオティクスの要件																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>増田 哲也 他3名</td> <td>日本食品科学工学会 第55回大会 (京都大学)</td> <td>風味良好な発酵乳製品を製造するための プロバイオティック乳酸桿菌のいくつか の重要な選択評価基準</td> <td>平成20年9月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	増田 哲也 他3名	日本食品科学工学会 第55回大会 (京都大学)	風味良好な発酵乳製品を製造するための プロバイオティック乳酸桿菌のいくつか の重要な選択評価基準	平成20年9月																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
増田 哲也 他3名	日本食品科学工学会 第55回大会 (京都大学)	風味良好な発酵乳製品を製造するための プロバイオティック乳酸桿菌のいくつか の重要な選択評価基準	平成20年9月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の  可 /  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
日本ケフィア株式会社より「発酵乳ケフィアを用いたプロバイオティクス食品開発」の委託研究 (100万円 : 平成20年4月1日～平成21年3月31日)			
(他の研究への発展)			
ケフィアグレイン構成酵母の菌対外プロテアーゼ活性の検討			
(その他)			

* 課題番号	個 07-105
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 30 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_ 鈴木 美和



所属・資格 \_\_\_\_\_ 生物資源科学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	鯨類における水分の摂取ならびに保持機構の解明																																	
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）																																	
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">発表者名</th> <th style="width: 20%;">学会名</th> <th style="width: 40%;">発表テーマ</th> <th style="width: 20%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴木美和, 他</td> <td>日本水産学会</td> <td>バンドウイルカ <i>Tursiops truncatus</i> 主胃におけるアクアポリン2の発現分布</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>鈴木美和</td> <td>東京大学海洋研究所共同利用研究集会</td> <td>鯨類の浸透圧調節—イルカはどのように水分を確保しているのか—</td> <td>2008年6月</td> </tr> <tr> <td>鈴木美和</td> <td>勇魚会シンポジウム</td> <td>浸透圧調節機構からみたイルカの海水適応</td> <td>2009年3月</td> </tr> <tr> <td>鈴木美和, 他</td> <td>日本水産学会</td> <td>バンドウイルカ小腸における AQP-1 の発現分布</td> <td>2009年3月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	鈴木美和, 他	日本水産学会	バンドウイルカ <i>Tursiops truncatus</i> 主胃におけるアクアポリン2の発現分布	2008年3月	鈴木美和	東京大学海洋研究所共同利用研究集会	鯨類の浸透圧調節—イルカはどのように水分を確保しているのか—	2008年6月	鈴木美和	勇魚会シンポジウム	浸透圧調節機構からみたイルカの海水適応	2009年3月	鈴木美和, 他	日本水産学会	バンドウイルカ小腸における AQP-1 の発現分布	2009年3月												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
鈴木美和, 他	日本水産学会	バンドウイルカ <i>Tursiops truncatus</i> 主胃におけるアクアポリン2の発現分布	2008年3月																															
鈴木美和	東京大学海洋研究所共同利用研究集会	鯨類の浸透圧調節—イルカはどのように水分を確保しているのか—	2008年6月																															
鈴木美和	勇魚会シンポジウム	浸透圧調節機構からみたイルカの海水適応	2009年3月																															
鈴木美和, 他	日本水産学会	バンドウイルカ小腸における AQP-1 の発現分布	2009年3月																															
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 40%;">著書名・雑誌名／論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 20%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴木美和</td> <td>月刊海洋／鯨類の浸透圧調節—イルカは水分をどのように確保しているのか—</td> <td>40・10</td> <td>2008年12月</td> <td>海洋出版株式会社</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	鈴木美和	月刊海洋／鯨類の浸透圧調節—イルカは水分をどのように確保しているのか—	40・10	2008年12月	海洋出版株式会社																					
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
鈴木美和	月刊海洋／鯨類の浸透圧調節—イルカは水分をどのように確保しているのか—	40・10	2008年12月	海洋出版株式会社																														

※ホームページ等での公開の  是 /  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
*平成20-21年度科学研究費補助金採択 (若手研究B)			
研究課題「バンドウイルカ消化管におけるアクアポリンを介した水吸収機構に関する研究」			
(他の研究への発展)			
(その他)			




* 課題番号	個 07-106
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年4月18日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 高橋 恭子 

所属・資格 生物資源科学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注: 該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	腸管上皮の透過性亢進に対するマスト細胞の関与と食品成分によるその制御																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者</li> <li>研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Harata G, Takahashi K, He F, Kubota A, Hosono A, Kaminogawa S.</td> <td>日本免疫学会第 37 回学術集会</td> <td>マスト細胞における <i>Lactobacillus</i> GG と <i>L. gasseri</i> TMC0356 の直接的な作用</td> <td>2007 年 11 月</td> </tr> <tr> <td>笠倉和巳、高橋恭子、細野朗、上野川修一</td> <td>日本農芸化学会 2008 年度大会</td> <td>TLR2 を介したマスト細胞のアレルギー応答の抑制とその機序</td> <td>2008 年 3 月</td> </tr> <tr> <td>笠倉和巳、高橋恭子、細野朗、上野川修一</td> <td>日本食品免疫学会 2008 年度大会</td> <td>TLR2 リガンドによるマスト細胞のアレルギー応答の抑制</td> <td>2008 年 5 月</td> </tr> <tr> <td>Kasakura K, Takahashi K, Hosono A, Kaminogawa S.</td> <td>日本免疫学会第 38 回学術集会</td> <td>Suppressive effects of TLR2 ligands on allergic reactions of mast cells</td> <td>2008 年 12 月</td> </tr> <tr> <td>笠倉和巳、高橋恭子、細野朗、上野川修一</td> <td>日本農芸化学会 2009 年度大会</td> <td>マスト細胞のアレルギー応答の TLR2 依存的な抑制</td> <td>2009 年 3 月</td> </tr> <tr> <td>國井潤一、高橋恭子、笠倉和巳、細野朗、上野川修一</td> <td>日本農芸化学会 2009 年度大会</td> <td>腸内細菌がマスト細胞の最終分化に及ぼす影響</td> <td>2009 年 3 月</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Harata G, Takahashi K, He F, Kubota A, Hosono A, Kaminogawa S.	日本免疫学会第 37 回学術集会	マスト細胞における <i>Lactobacillus</i> GG と <i>L. gasseri</i> TMC0356 の直接的な作用	2007 年 11 月	笠倉和巳、高橋恭子、細野朗、上野川修一	日本農芸化学会 2008 年度大会	TLR2 を介したマスト細胞のアレルギー応答の抑制とその機序	2008 年 3 月	笠倉和巳、高橋恭子、細野朗、上野川修一	日本食品免疫学会 2008 年度大会	TLR2 リガンドによるマスト細胞のアレルギー応答の抑制	2008 年 5 月	Kasakura K, Takahashi K, Hosono A, Kaminogawa S.	日本免疫学会第 38 回学術集会	Suppressive effects of TLR2 ligands on allergic reactions of mast cells	2008 年 12 月	笠倉和巳、高橋恭子、細野朗、上野川修一	日本農芸化学会 2009 年度大会	マスト細胞のアレルギー応答の TLR2 依存的な抑制	2009 年 3 月	國井潤一、高橋恭子、笠倉和巳、細野朗、上野川修一	日本農芸化学会 2009 年度大会	腸内細菌がマスト細胞の最終分化に及ぼす影響	2009 年 3 月		
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
Harata G, Takahashi K, He F, Kubota A, Hosono A, Kaminogawa S.	日本免疫学会第 37 回学術集会	マスト細胞における <i>Lactobacillus</i> GG と <i>L. gasseri</i> TMC0356 の直接的な作用	2007 年 11 月																															
笠倉和巳、高橋恭子、細野朗、上野川修一	日本農芸化学会 2008 年度大会	TLR2 を介したマスト細胞のアレルギー応答の抑制とその機序	2008 年 3 月																															
笠倉和巳、高橋恭子、細野朗、上野川修一	日本食品免疫学会 2008 年度大会	TLR2 リガンドによるマスト細胞のアレルギー応答の抑制	2008 年 5 月																															
Kasakura K, Takahashi K, Hosono A, Kaminogawa S.	日本免疫学会第 38 回学術集会	Suppressive effects of TLR2 ligands on allergic reactions of mast cells	2008 年 12 月																															
笠倉和巳、高橋恭子、細野朗、上野川修一	日本農芸化学会 2009 年度大会	マスト細胞のアレルギー応答の TLR2 依存的な抑制	2009 年 3 月																															
國井潤一、高橋恭子、笠倉和巳、細野朗、上野川修一	日本農芸化学会 2009 年度大会	腸内細菌がマスト細胞の最終分化に及ぼす影響	2009 年 3 月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Kasakura K, Takahashi K, Aizawa T, Hosono A, and Kaminogawa S.</td> <td>International Archives of Allergy and Immunology "A TLR2 ligand suppresses allergic inflammatory reactions by acting directly on mast cells."</td> <td></td> <td>in press</td> <td>Karger</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Kasakura K, Takahashi K, Aizawa T, Hosono A, and Kaminogawa S.	International Archives of Allergy and Immunology "A TLR2 ligand suppresses allergic inflammatory reactions by acting directly on mast cells."		in press	Karger																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
Kasakura K, Takahashi K, Aizawa T, Hosono A, and Kaminogawa S.	International Archives of Allergy and Immunology "A TLR2 ligand suppresses allergic inflammatory reactions by acting directly on mast cells."		in press	Karger																														

※ホームページ等での公開の (◎・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-107
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年4月27日

日本大学 総長 殿

氏 名 関 泰一郎



所属・資格 生物資源科学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																				
2 研究課題	<b>Adipomin/RMCP-1 を中心としたメタボリックシンドローム発症機構の解明</b>																																					
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																					
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T. Seki et al.</td> <td>ISFP2008</td> <td>Adipomin, a fibrinolytic factor found in adipose tissues, regulates proliferation and apoptosis of adipocytes.</td> <td>2008/7</td> </tr> <tr> <td>奥山可奈子、関 泰一郎 他</td> <td>第31回日本血栓止血学会</td> <td>キマーゼの線溶酵素としての特徴と脂肪組織における役割について</td> <td>2008年11月</td> </tr> <tr> <td>奥山可奈子、関 泰一郎 他</td> <td>日本農芸化学会 2009 年度大会</td> <td>脂肪組織由来線溶酵素 adipomin/chymase の酵素学的特徴と肥満による発現変動</td> <td>2009年3月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	T. Seki et al.	ISFP2008	Adipomin, a fibrinolytic factor found in adipose tissues, regulates proliferation and apoptosis of adipocytes.	2008/7	奥山可奈子、関 泰一郎 他	第31回日本血栓止血学会	キマーゼの線溶酵素としての特徴と脂肪組織における役割について	2008年11月	奥山可奈子、関 泰一郎 他	日本農芸化学会 2009 年度大会	脂肪組織由来線溶酵素 adipomin/chymase の酵素学的特徴と肥満による発現変動	2009年3月																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																			
T. Seki et al.	ISFP2008	Adipomin, a fibrinolytic factor found in adipose tissues, regulates proliferation and apoptosis of adipocytes.	2008/7																																			
奥山可奈子、関 泰一郎 他	第31回日本血栓止血学会	キマーゼの線溶酵素としての特徴と脂肪組織における役割について	2008年11月																																			
奥山可奈子、関 泰一郎 他	日本農芸化学会 2009 年度大会	脂肪組織由来線溶酵素 adipomin/chymase の酵素学的特徴と肥満による発現変動	2009年3月																																			
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																		

※ホームページ等での公開の (可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			
<p>奥山可奈子、関 泰一郎、有賀豊彦  キマーゼの線溶酵素としての特徴と脂肪組織における役割について  第 31 回日本血栓止血学会学術集会 (大阪 2008 年 11 月 22 日)  日本血栓止血学会誌、19 (5) , 709, 2008 【優秀ポスター賞受賞】</p>			

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年4月28日

日本大学 総長 殿

氏 名 高 橋 令 二



所属・資格 生物資源科学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																												
2 研究課題	各種環境からの亜硝酸酸化菌の分離と新たな分子系統分類指標の開発																															
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																															
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石森 英樹、高橋 令二、 佐藤 有佑、石山 祥子、 中川 達功、徳山 龍明</td> <td>2008 年度日本土壌肥料学 会関東支部大会</td> <td>各種環境から分離された <i>Nitrobacter</i> 属菌 の特性とその分類</td> <td>平成20年11月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	石森 英樹、高橋 令二、 佐藤 有佑、石山 祥子、 中川 達功、徳山 龍明	2008 年度日本土壌肥料学 会関東支部大会	各種環境から分離された <i>Nitrobacter</i> 属菌 の特性とその分類	平成20年11月																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																													
石森 英樹、高橋 令二、 佐藤 有佑、石山 祥子、 中川 達功、徳山 龍明	2008 年度日本土壌肥料学 会関東支部大会	各種環境から分離された <i>Nitrobacter</i> 属菌 の特性とその分類	平成20年11月																													
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Reiji Takahashi, Kazuo Sato, and Tatsuaki Tokuyama</td> <td>Analysis of microbial diversity, isolation of ammonia-oxidizing and sulfur-oxidizing bacteria in acid sulfate soil in Sasaki S. (ed). "Development of New Bioremediation Systems of Acid Sulfate Soil for Agriculture and Forestry"</td> <td> </td> <td>平成20年2 月</td> <td>Shoukadoh (Kyoto, Japan) (松香 堂)</td> </tr> <tr> <td>Yoshifumi Ando, Tatsunori Nakagawa, Reiji Takahashi, Kiyoshi yoshihara, and Tatsuaki Tokuyama</td> <td><i>Microbes and Environments</i> / Seasonal changes in abundance of ammonia-oxidizing archaea and ammonia-oxidizing bacteria and their nitrification in sand of an eelgrass zone</td> <td>Vol.24 No.1</td> <td>平成21年3 月</td> <td>日本微生物生態学 会</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Reiji Takahashi, Kazuo Sato, and Tatsuaki Tokuyama	Analysis of microbial diversity, isolation of ammonia-oxidizing and sulfur-oxidizing bacteria in acid sulfate soil in Sasaki S. (ed). "Development of New Bioremediation Systems of Acid Sulfate Soil for Agriculture and Forestry"		平成20年2 月	Shoukadoh (Kyoto, Japan) (松香 堂)	Yoshifumi Ando, Tatsunori Nakagawa, Reiji Takahashi, Kiyoshi yoshihara, and Tatsuaki Tokuyama	<i>Microbes and Environments</i> / Seasonal changes in abundance of ammonia-oxidizing archaea and ammonia-oxidizing bacteria and their nitrification in sand of an eelgrass zone	Vol.24 No.1	平成21年3 月	日本微生物生態学 会													
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																												
Reiji Takahashi, Kazuo Sato, and Tatsuaki Tokuyama	Analysis of microbial diversity, isolation of ammonia-oxidizing and sulfur-oxidizing bacteria in acid sulfate soil in Sasaki S. (ed). "Development of New Bioremediation Systems of Acid Sulfate Soil for Agriculture and Forestry"		平成20年2 月	Shoukadoh (Kyoto, Japan) (松香 堂)																												
Yoshifumi Ando, Tatsunori Nakagawa, Reiji Takahashi, Kiyoshi yoshihara, and Tatsuaki Tokuyama	<i>Microbes and Environments</i> / Seasonal changes in abundance of ammonia-oxidizing archaea and ammonia-oxidizing bacteria and their nitrification in sand of an eelgrass zone	Vol.24 No.1	平成21年3 月	日本微生物生態学 会																												

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
「チューブ状炭酸マグネシウムの微生物学的分野における有用性の検討」をテーマに本研究で得られた知見、新規分離菌株の活用を前提に、(株)日本色材工業研究所より平成 19 年度、20 年度に 奨学研究寄付金を受給された。			
(他の研究への発展)			
本研究は、硝化のプロセスに関わる菌種である亜硝酸酸化菌を対象としているが、硝化に関わるもう一方の微生物であるアンモニア酸化菌 (バクテリア)、もしくはアンモニア酸化アーキアの研究においても本研究の知見は非常に重要で、不可欠なものである。本研究の知見を活用した以下の原著論文が印刷中である。 Analysis of ammonia monooxygenase and archaeal 16S rRNA gene fragments in nitrifying acid-sulfate soil microcosms. Asami Nakaya, Yuki Onodera, Tatsunori Nakagawa, Kazuo Satoh, <u>Reiji Takahashi</u> , Satohiko Sasaki, and Tatsuaki Tokuyama, <i>Microbes and Environments</i> , (in press).			
(その他)			

* 課題番号	個07-109
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年 3月 30日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 明石智義



所属・資格 生物資源科学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注: 該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	ダイズ型イソフラボノイドのバイオテクノロジー生産																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Shimamura, M., Akashi, T., Sakurai, N., Suzuki, H., Saito, K., Shibata, D., Ayabe, S., Aoki, T.</td> <td>2-Hydroxyisoflavanone dehydratase is a critical determinant of isoflavone productivity in hairy root cultures of Lotus japonicus. / Plant Cell Physiology</td> <td>48 (11)</td> <td>2007年 11月</td> <td>Oxford Journals 日本植物生理学会</td> </tr> <tr> <td>Akashi, T., Sasaki, K., Aoki, T., Ayabe, S., Yazaki, K.</td> <td>Molecular cloning and characterization of a cDNA for pterocarpin 4-dimethylallyltransferase catalyzing the key prenylation step in the biosynthesis of glyceollin, a soybean phytoalexin. / Plant Physiology</td> <td>149 (2)</td> <td>2009年 2月</td> <td>American Society of Plant Biologists</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Shimamura, M., Akashi, T., Sakurai, N., Suzuki, H., Saito, K., Shibata, D., Ayabe, S., Aoki, T.	2-Hydroxyisoflavanone dehydratase is a critical determinant of isoflavone productivity in hairy root cultures of Lotus japonicus. / Plant Cell Physiology	48 (11)	2007年 11月	Oxford Journals 日本植物生理学会	Akashi, T., Sasaki, K., Aoki, T., Ayabe, S., Yazaki, K.	Molecular cloning and characterization of a cDNA for pterocarpin 4-dimethylallyltransferase catalyzing the key prenylation step in the biosynthesis of glyceollin, a soybean phytoalexin. / Plant Physiology	149 (2)	2009年 2月	American Society of Plant Biologists																	
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
Shimamura, M., Akashi, T., Sakurai, N., Suzuki, H., Saito, K., Shibata, D., Ayabe, S., Aoki, T.	2-Hydroxyisoflavanone dehydratase is a critical determinant of isoflavone productivity in hairy root cultures of Lotus japonicus. / Plant Cell Physiology	48 (11)	2007年 11月	Oxford Journals 日本植物生理学会																																
Akashi, T., Sasaki, K., Aoki, T., Ayabe, S., Yazaki, K.	Molecular cloning and characterization of a cDNA for pterocarpin 4-dimethylallyltransferase catalyzing the key prenylation step in the biosynthesis of glyceollin, a soybean phytoalexin. / Plant Physiology	149 (2)	2009年 2月	American Society of Plant Biologists																																

※ホームページ等での公開の  (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
NEDO 開発機構「植物の物質生産プロセス制御基盤技術開発」再委託研究 (事業推進担当者青木俊夫, 平成20年) につながった。			
(他の研究への発展)			
植物成分の異種細胞発現系での生産の研究に発展させることができた。 Seki, H., Ohyama, K., Sawai, S., Mizutani, M., Ohnishi, T., Sudo, H., <u>Akashi, T.</u> , Aoki, T., Saito, K., Muranaka, T. (2008) Licorice b-amyrin 11-oxidase, a cytochrome P450 with a key role in the biosynthesis of the triterpene sweetener glycyrrhizin. <b>Proceedings of the National Academy of Sciences USA</b> , 105(37):14204-14209.			
(その他)			



【別紙様式 9】

\* 課題番号

107-110

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 浅 見 覚



所属・資格 薬 学 部 助 教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	Ewing's 肉腫 family 腫瘍における新規治療薬の開発研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
原田理香、浅見覚 (他3名)	第24回日本小児がん学会	Ewing's sarcoma family tumor における融合遺伝子のシグナル伝達機構の解明	2008年11月	
葉山達也、浅見覚 (他7名)	日本薬学会 129 年会	Ewing's sarcoma family tumor における融合遺伝子の検出とその臨床応用	2009年3月	
原田理香、浅見覚 (他2名)	日本薬学会 129 年会	Ewing's sarcoma family tumor における融合遺伝子のシグナル伝達機構の解明	2009年3月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Asami Satoru (他6名)	Treatment of Ewing's sarcoma using an antisense oligodeoxynucleotide to regulate the cell cycle.	31(3)	2008.03	Biol Pharm Bull.

※ホームページ等での公開の  可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-111
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 鈴木 豊 史

所属・資格 薬学部・専任講師



下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注: 該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	麻薬拮抗薬の血液脳関門取り込み輸送に関わる有機カチオントランスポーターの役割																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宮田真理子, 鈴木豊史, ほか5名</td> <td>日本薬学会第127年会(富山)</td> <td>麻薬拮抗薬ナロキソンの脳内取り込み過程の評価</td> <td>平成19年3月29日</td> </tr> <tr> <td>宮田真理子, 鈴木豊史, ほか3名</td> <td>第51回日本薬学会関東支部大会第(星薬科大学)</td> <td>血液脳関門におけるナロキソンの取り込み輸送機構</td> <td>平成19年10月6日</td> </tr> <tr> <td>鈴木豊史, 宮田真理子, ほか4名</td> <td>トランスポーター研究会第1回関東部会(東工大)</td> <td>麻薬拮抗薬ナロキソンの血液脳関門輸送に及ぼすP-glycoproteinの影響</td> <td>平成19年12月10日</td> </tr> <tr> <td>宮田真理子, 鈴木豊史, ほか4名</td> <td>日本薬学会第128年会(横浜)</td> <td>麻薬拮抗薬ナロキソンの血液脳関門輸送におけるP-gpの関与</td> <td>平成20年3月28日</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	宮田真理子, 鈴木豊史, ほか5名	日本薬学会第127年会(富山)	麻薬拮抗薬ナロキソンの脳内取り込み過程の評価	平成19年3月29日	宮田真理子, 鈴木豊史, ほか3名	第51回日本薬学会関東支部大会第(星薬科大学)	血液脳関門におけるナロキソンの取り込み輸送機構	平成19年10月6日	鈴木豊史, 宮田真理子, ほか4名	トランスポーター研究会第1回関東部会(東工大)	麻薬拮抗薬ナロキソンの血液脳関門輸送に及ぼすP-glycoproteinの影響	平成19年12月10日	宮田真理子, 鈴木豊史, ほか4名	日本薬学会第128年会(横浜)	麻薬拮抗薬ナロキソンの血液脳関門輸送におけるP-gpの関与	平成20年3月28日																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
宮田真理子, 鈴木豊史, ほか5名	日本薬学会第127年会(富山)	麻薬拮抗薬ナロキソンの脳内取り込み過程の評価	平成19年3月29日																																									
宮田真理子, 鈴木豊史, ほか3名	第51回日本薬学会関東支部大会第(星薬科大学)	血液脳関門におけるナロキソンの取り込み輸送機構	平成19年10月6日																																									
鈴木豊史, 宮田真理子, ほか4名	トランスポーター研究会第1回関東部会(東工大)	麻薬拮抗薬ナロキソンの血液脳関門輸送に及ぼすP-glycoproteinの影響	平成19年12月10日																																									
宮田真理子, 鈴木豊史, ほか4名	日本薬学会第128年会(横浜)	麻薬拮抗薬ナロキソンの血液脳関門輸送におけるP-gpの関与	平成20年3月28日																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 4月 13日

日本大学 総長 殿

氏 名 田 口 博 之



所属・資格 薬学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	シクロデキストリンを乳化剤として用いた新規エマルジョン基剤の開発																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者</li> <li>研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣</td> <td>日本薬学会第128年会</td> <td>シクロデキストリン誘導体を用いたサーファクタントフリーエマルジョンの調製とその物性</td> <td>2008年3月28日</td> </tr> <tr> <td>井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣</td> <td>第47回日本油化学会年会</td> <td>シクロデキストリンを乳化剤として用いたエマルジョンの調製とそのキャラクタリゼーション</td> <td>2008年9月17日</td> </tr> <tr> <td>亀ヶ谷直幸, 井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣</td> <td>第47回日本油化学会年会</td> <td>アミノシクロデキストリンを用いたエマルジョンの調製とその性質</td> <td>2008年9月17日</td> </tr> <tr> <td>亀ヶ谷直幸, 井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣</td> <td>2008年度材料技術 研究協会討論会</td> <td>アミノシクロデキストリンを用いたエマルジョンの安定化とその制御</td> <td>2008年12月5日</td> </tr> <tr> <td>井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣</td> <td>日本薬学会第129年会</td> <td>シクロデキストリンを用いたPickeringエマルジョンの形成メカニズム</td> <td>2009年3月27日</td> </tr> <tr> <td>亀ヶ谷直幸, 井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣</td> <td>日本薬学会第129年会</td> <td>アミノシクロデキストリンを用いたPickeringエマルジョンの安定化制御</td> <td>2009年3月27日</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣	日本薬学会第128年会	シクロデキストリン誘導体を用いたサーファクタントフリーエマルジョンの調製とその物性	2008年3月28日	井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣	第47回日本油化学会年会	シクロデキストリンを乳化剤として用いたエマルジョンの調製とそのキャラクタリゼーション	2008年9月17日	亀ヶ谷直幸, 井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣	第47回日本油化学会年会	アミノシクロデキストリンを用いたエマルジョンの調製とその性質	2008年9月17日	亀ヶ谷直幸, 井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣	2008年度材料技術 研究協会討論会	アミノシクロデキストリンを用いたエマルジョンの安定化とその制御	2008年12月5日	井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣	日本薬学会第129年会	シクロデキストリンを用いたPickeringエマルジョンの形成メカニズム	2009年3月27日	亀ヶ谷直幸, 井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣	日本薬学会第129年会	アミノシクロデキストリンを用いたPickeringエマルジョンの安定化制御	2009年3月27日							
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣	日本薬学会第128年会	シクロデキストリン誘導体を用いたサーファクタントフリーエマルジョンの調製とその物性	2008年3月28日																																				
井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣	第47回日本油化学会年会	シクロデキストリンを乳化剤として用いたエマルジョンの調製とそのキャラクタリゼーション	2008年9月17日																																				
亀ヶ谷直幸, 井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣	第47回日本油化学会年会	アミノシクロデキストリンを用いたエマルジョンの調製とその性質	2008年9月17日																																				
亀ヶ谷直幸, 井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣	2008年度材料技術 研究協会討論会	アミノシクロデキストリンを用いたエマルジョンの安定化とその制御	2008年12月5日																																				
井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣	日本薬学会第129年会	シクロデキストリンを用いたPickeringエマルジョンの形成メカニズム	2009年3月27日																																				
亀ヶ谷直幸, 井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣	日本薬学会第129年会	アミノシクロデキストリンを用いたPickeringエマルジョンの安定化制御	2009年3月27日																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣</td> <td>Chem. Pharm. Bull./Formation and Characterization of Emulsions Using <math>\beta</math>-Cyclodextrin as an Emulsifier</td> <td>56・5</td> <td>2008年5月</td> <td>日本薬学会</td> </tr> <tr> <td>井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣</td> <td>Chem. Pharm. Bull./Emulsion Preparation Using <math>\beta</math>-Cyclodextrin and Its Derivatives Acting as an Emulsifier</td> <td>56・9</td> <td>2008年12月</td> <td>日本薬学会</td> </tr> <tr> <td>井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣</td> <td>J. Oleo Sci./Preparation and Characterization of n-Alkane/Water Emulsion Stabilized by Cyclodextrin</td> <td>58・2</td> <td>2009年2月</td> <td>日本油化学会</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣	Chem. Pharm. Bull./Formation and Characterization of Emulsions Using $\beta$ -Cyclodextrin as an Emulsifier	56・5	2008年5月	日本薬学会	井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣	Chem. Pharm. Bull./Emulsion Preparation Using $\beta$ -Cyclodextrin and Its Derivatives Acting as an Emulsifier	56・9	2008年12月	日本薬学会	井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣	J. Oleo Sci./Preparation and Characterization of n-Alkane/Water Emulsion Stabilized by Cyclodextrin	58・2	2009年2月	日本油化学会															
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣	Chem. Pharm. Bull./Formation and Characterization of Emulsions Using $\beta$ -Cyclodextrin as an Emulsifier	56・5	2008年5月	日本薬学会																																			
井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣	Chem. Pharm. Bull./Emulsion Preparation Using $\beta$ -Cyclodextrin and Its Derivatives Acting as an Emulsifier	56・9	2008年12月	日本薬学会																																			
井上元基, 橋崎要 田口博之, 齋藤好廣	J. Oleo Sci./Preparation and Characterization of n-Alkane/Water Emulsion Stabilized by Cyclodextrin	58・2	2009年2月	日本油化学会																																			

※ホームページ等での公開の  (可) /  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			
2008年度材料技術研究協会討論会「口頭講演賞」受賞			
講演題目「アミノシクロデキストリンを用いたエマルジョンの安定化とその制御」			
亀ヶ谷直幸, 井上元基, 橋崎要, 田口博之, 齋藤好廣			
2008年度材料技術研究協会討論会 2008年12月5日			

【別紙様式 9】

*課題番号	個07-113
-------	---------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 九 川 文 彦 印

所属・資格 薬学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	ドキシソルビシンの心筋細胞障害性に関する薬物動態																																									
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者</li> <li>研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																									
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>九川文彦, 橋崎 要, 鈴木豊史, 伴野和夫他1名</td> <td>日本薬学会第128年会</td> <td>抗がん剤に抵抗性を獲得したがん細胞に対する新規化学療法:pH sensitive リボソームによるDDSの基礎的研究</td> <td>2008年3月26日</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	九川文彦, 橋崎 要, 鈴木豊史, 伴野和夫他1名	日本薬学会第128年会	抗がん剤に抵抗性を獲得したがん細胞に対する新規化学療法:pH sensitive リボソームによるDDSの基礎的研究	2008年3月26日																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																							
九川文彦, 橋崎 要, 鈴木豊史, 伴野和夫他1名	日本薬学会第128年会	抗がん剤に抵抗性を獲得したがん細胞に対する新規化学療法:pH sensitive リボソームによるDDSの基礎的研究	2008年3月26日																																							
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																						

※ホームページ等での公開の  (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			



平成 21 年 3 月 31 日

研究事務課

課長 川名 真 殿

臨床薬物動態学ユニット

教授 松 本 宜 明



平成 19 年度 学術研究助成金 一般研究(個人)成果報告書について

標記のことについて、平成 21 年 2 月 24 日付けにて、平成 19 年度日本大学学術研究助成金に係る成果報告書の提出依頼がありましたが、当該研究ユニットに所属しておりました、准教授 九川文彦は、平成 20 年 3 月 31 日付けをもちまして、既に退職しております。

従って、当該助成金に関する成果報告を別紙のとおり提出させていただきますが、【別紙様式 9】成果物報告書に押印することができません。その旨、ご了承下さるようお願い申し上げます。

#### 記

課題番号	個 0 7 - 1 1 3
研究課題	ドキソルビシンの心筋細胞障害に関する薬物動態
研究成果	学会発表 平成 20 年 3 月 28 日横浜開催 日本薬学会第 128 年会 抗がん剤に抵抗性を獲得したがん細胞に対する新規化学療法 : pH sensitive リポソームによる DDS の基礎的検討

以 上

* 課題番号	個 07-114
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 5月 1日

日本大学 総長 殿

氏 名 小林 俊亮

所属・資格 薬学部・准教授



下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	神経系における YB-1 遺伝子の転写調節機構とターゲット mRNA に関する研究																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者</li> <li>研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>樋口孝、小林俊亮、安西借二郎</td> <td>日本生化学会・日本分子生物学会合同大会</td> <td>転写因子 NF-<math>\kappa</math>B の DNA 結合性を抑制する U7 snRNA の新しい機能</td> <td>平成 19 年 12 月</td> </tr> <tr> <td>田中融、大橋祥世、船越智子、西川泰氏、小林俊亮、安西借二郎</td> <td>日本生化学会・日本分子生物学会合同大会</td> <td>GluR2 mRNA の翻訳に対する YB-1 タンパク質の影響</td> <td>平成 20 年 12 月</td> </tr> <tr> <td>大橋祥世、厚見恵、鈴木展宏、小林俊亮、安西借二郎</td> <td>日本生化学会・日本分子生物学会合同大会</td> <td>細胞質における HSP60 と YB-1 の相互作用</td> <td>平成 20 年 12 月</td> </tr> <tr> <td>田中融、大橋祥世、小林俊亮、安西借二郎</td> <td>日本薬学会</td> <td>脳において YB-1 タンパク質が相互作用する mRNA</td> <td>平成 21 年 3 月</td> </tr> <tr> <td>大橋祥世、樋口孝、小林俊亮、安西借二郎</td> <td>日本薬学会</td> <td>成長過程の脳における YB-1 遺伝子発現の調節</td> <td>平成 21 年 3 月</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	樋口孝、小林俊亮、安西借二郎	日本生化学会・日本分子生物学会合同大会	転写因子 NF- $\kappa$ B の DNA 結合性を抑制する U7 snRNA の新しい機能	平成 19 年 12 月	田中融、大橋祥世、船越智子、西川泰氏、小林俊亮、安西借二郎	日本生化学会・日本分子生物学会合同大会	GluR2 mRNA の翻訳に対する YB-1 タンパク質の影響	平成 20 年 12 月	大橋祥世、厚見恵、鈴木展宏、小林俊亮、安西借二郎	日本生化学会・日本分子生物学会合同大会	細胞質における HSP60 と YB-1 の相互作用	平成 20 年 12 月	田中融、大橋祥世、小林俊亮、安西借二郎	日本薬学会	脳において YB-1 タンパク質が相互作用する mRNA	平成 21 年 3 月	大橋祥世、樋口孝、小林俊亮、安西借二郎	日本薬学会	成長過程の脳における YB-1 遺伝子発現の調節	平成 21 年 3 月								
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
樋口孝、小林俊亮、安西借二郎	日本生化学会・日本分子生物学会合同大会	転写因子 NF- $\kappa$ B の DNA 結合性を抑制する U7 snRNA の新しい機能	平成 19 年 12 月																															
田中融、大橋祥世、船越智子、西川泰氏、小林俊亮、安西借二郎	日本生化学会・日本分子生物学会合同大会	GluR2 mRNA の翻訳に対する YB-1 タンパク質の影響	平成 20 年 12 月																															
大橋祥世、厚見恵、鈴木展宏、小林俊亮、安西借二郎	日本生化学会・日本分子生物学会合同大会	細胞質における HSP60 と YB-1 の相互作用	平成 20 年 12 月																															
田中融、大橋祥世、小林俊亮、安西借二郎	日本薬学会	脳において YB-1 タンパク質が相互作用する mRNA	平成 21 年 3 月																															
大橋祥世、樋口孝、小林俊亮、安西借二郎	日本薬学会	成長過程の脳における YB-1 遺伝子発現の調節	平成 21 年 3 月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Takashi Higuchi, Kaijiro Anzai, Shunsuke Kobayashi</td> <td>Biochimica et Biophysica Acta/U7 snRNA acts as a transcriptional regulator interacting with an inverted CCAAT sequence-binding transcription factor NF-<math>\kappa</math>B</td> <td>1780・2</td> <td>2008・2</td> <td>ELSEVIER</td> </tr> <tr> <td>Sachiyo Ohashi, Reiko Fukumura, Takashi Higuchi, Shunsuke Kobayashi</td> <td>Molecular and Cellular Biochemistry/YB-1 transcription in the postnatal brain is regulated by a bHLH transcription factor Math2 through an E-box sequence in the 5' -UTR of the gene</td> <td>Published online</td> <td>2009・2</td> <td>Springer</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Takashi Higuchi, Kaijiro Anzai, Shunsuke Kobayashi	Biochimica et Biophysica Acta/U7 snRNA acts as a transcriptional regulator interacting with an inverted CCAAT sequence-binding transcription factor NF- $\kappa$ B	1780・2	2008・2	ELSEVIER	Sachiyo Ohashi, Reiko Fukumura, Takashi Higuchi, Shunsuke Kobayashi	Molecular and Cellular Biochemistry/YB-1 transcription in the postnatal brain is regulated by a bHLH transcription factor Math2 through an E-box sequence in the 5' -UTR of the gene	Published online	2009・2	Springer																	
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
Takashi Higuchi, Kaijiro Anzai, Shunsuke Kobayashi	Biochimica et Biophysica Acta/U7 snRNA acts as a transcriptional regulator interacting with an inverted CCAAT sequence-binding transcription factor NF- $\kappa$ B	1780・2	2008・2	ELSEVIER																														
Sachiyo Ohashi, Reiko Fukumura, Takashi Higuchi, Shunsuke Kobayashi	Molecular and Cellular Biochemistry/YB-1 transcription in the postnatal brain is regulated by a bHLH transcription factor Math2 through an E-box sequence in the 5' -UTR of the gene	Published online	2009・2	Springer																														

※ホームページ等での公開の  (可)  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>なし</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p> <p>なし</p>			
<p>(他の研究への発展)</p> <p>神経系における YB-1 の転写調節機構の解析は、神経芽腫における YB-1 の発現調節に関する研究と、神経系腫瘍細胞中で YB-1 が転写因子として働くとされているがんの悪性化に関わる遺伝子の発現調節機構の研究へと発展した。このことにより、多剤耐性遺伝子の転写調節に核内低分子 RNA が関与していることがわかり、学術論文として報告した (Biochimica et Biophysica Acta)。今後さらに YB-1 の発現とがんの増悪との関連の研究への発展が考えられる。</p>			
<p>(その他)</p>			

学会発表要旨集表紙、目次、要旨本文のコピー。Paper は、別刷り or コピーをつけて提出した。

* 課題番号	個 07-115
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 30 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 三宅宗晴



所属・資格 薬学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	グルタミン酸受容体阻害活性を持つ脳神経保護の開発研究																																									
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）																																									
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">発表者名</th> <th style="width: 25%;">学会名</th> <th style="width: 40%;">発表テーマ</th> <th style="width: 10%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三宅宗晴、益子 崇 他10名</td> <td>日本薬学会129年会</td> <td>ポリアミン誘導体による NMDA 受容体活性阻害を介した脳保護効果</td> <td>平成21年3月28日</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	三宅宗晴、益子 崇 他10名	日本薬学会129年会	ポリアミン誘導体による NMDA 受容体活性阻害を介した脳保護効果	平成21年3月28日																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																							
三宅宗晴、益子 崇 他10名	日本薬学会129年会	ポリアミン誘導体による NMDA 受容体活性阻害を介した脳保護効果	平成21年3月28日																																							
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 30%;">著書名・雑誌名／論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 25%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																						

※ホームページ等での公開の  (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個07-116
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 23 日

日本大学 総長 殿

氏 名 高 網 博 文  
 所属・資格 通信教育部・教授



下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	近代上海における日本人の活動と意識に関する歴史的研究			
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）			
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
高網博文	「上海日本人居留民の歴史意識の生成」(『史叢』)	78号	20年3月	日本大学史学会
高網博文	「内山完造の新史料」(『研究紀要』)	21号	20年3月	日本大学通信教育部

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 4月 15日

日本大学 総長 殿

氏 名 佐藤 稔



所属・資格 通信教育部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	所得税制の現状と問題点－所得税制のあり方を中心に－			
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者（役割分担）</li> </ul>			
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
佐藤稔	日本大学通信教育部「研究紀要」 「所得税制の現状とその問題点」	第22号	平成21年3月	日本大学通信教育部通信教育研究所

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。



6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-118
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 7 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏名 水野 満



所属・資格 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	タイ、マレーシア、韓国、フィリピンのベンチャー市場の特性と課題			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
水野 満	証券経済学会	東アジア諸国のベンチャー市場の特性と課題	2008年10月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
水野 満	東アジア諸国のベンチャー市場の特性と課題	44号	2008年7月	証券経済学会 事務局

※ホームページ等での公開の(可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

本研究を元にシンガポールのカタリスト、香港の GEM と 2009 年 4 月に創設される東証・ロンドン証取の合弁会社である TOKYO AIM の間でベンチャーのアジア市場間競争が始まる。現在、アジア市場間競争というテーマで研究中である。

(その他)

* 課題番号	個 07-119
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 5月 21日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 松岡 直美 

所属・資格 総合社会情報研究科・教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	奨励研究 / <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。	
2	研究課題	アメリカにおける村上春樹の受容		
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究代表者</li>   <li>・ 研究分担者（役割分担）</li> </ul>		
4	学会発表等	（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）		
	発表者名	学会名	発表テーマ	
	松岡 直美	アメリカ比較文学会 2008年度大会	Haruki Murakami as a <i>New Yorker</i> <i>Writer</i>	
	松岡 直美	日本アジア研究学会 2008年度大会	Dialogic Structure in Haruki Murakami's "Double" Novels	
5	著書・雑誌論文	（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）		
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月
				出版社・発行所

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

(その他)

【別紙様式 9】

* 課題番号	個 07-120
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 5月 1日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 舩廣 善和



所属・資格 生物資源科学部・講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	サイトカインシグナル抑制因子 SOCS の新たな機能の検索とその制御機構の解明																																									
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																									
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舩廣善和</td> <td>日本分子生物学会</td> <td>SOCS-3 と DP-1 の相互作用による細胞周期調節機構の解析</td> <td>2008年12月12日</td> </tr> <tr> <td>小島裕久</td> <td>日本分子生物学会</td> <td>SOCS-7 は NF-<math>\kappa</math>B シグナル活性化因子 TRIP6 と相互作用しそのシグナルを負に制御する</td> <td>2008年12月12日</td> </tr> <tr> <td>双津牧雄</td> <td>日本分子生物学会</td> <td>Erk2 によるヒト SOCS-3 の S159 のリン酸化と JAK-STAT シグナル伝達系制御</td> <td>2008年12月12日</td> </tr> <tr> <td>上谷能彬</td> <td>日本分子生物学会</td> <td>細胞周期調節性転写因子 DP-1 のプロテアソーム系を介する自己分解機構</td> <td>2008年12月12日</td> </tr> <tr> <td>舩廣善和</td> <td>日本農芸化学会</td> <td>細胞膜透過性タグ融合サイトカインシグナル抑制因子 SOCS-2 の大腸菌による発現系の確立</td> <td>2009年3月29日</td> </tr> <tr> <td>尾勝圭</td> <td>日本農芸化学会</td> <td>サイトカインシグナル抑制因子 SOCS-7 の新規機能の解析：TRIAD3 は SOCS-7 の新たな相互作用因子である</td> <td>2009年3月28日</td> </tr> <tr> <td>荒川貴史</td> <td>日本農芸化学会</td> <td>細胞周期調節性転写因子 DP-1 のプロテアソームを介する分解機構；その分解制御領域 Stabilon 及び Degron の固定</td> <td>2009年3月29日</td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	舩廣善和	日本分子生物学会	SOCS-3 と DP-1 の相互作用による細胞周期調節機構の解析	2008年12月12日	小島裕久	日本分子生物学会	SOCS-7 は NF- $\kappa$ B シグナル活性化因子 TRIP6 と相互作用しそのシグナルを負に制御する	2008年12月12日	双津牧雄	日本分子生物学会	Erk2 によるヒト SOCS-3 の S159 のリン酸化と JAK-STAT シグナル伝達系制御	2008年12月12日	上谷能彬	日本分子生物学会	細胞周期調節性転写因子 DP-1 のプロテアソーム系を介する自己分解機構	2008年12月12日	舩廣善和	日本農芸化学会	細胞膜透過性タグ融合サイトカインシグナル抑制因子 SOCS-2 の大腸菌による発現系の確立	2009年3月29日	尾勝圭	日本農芸化学会	サイトカインシグナル抑制因子 SOCS-7 の新規機能の解析：TRIAD3 は SOCS-7 の新たな相互作用因子である	2009年3月28日	荒川貴史	日本農芸化学会	細胞周期調節性転写因子 DP-1 のプロテアソームを介する分解機構；その分解制御領域 Stabilon 及び Degron の固定	2009年3月29日								
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																							
舩廣善和	日本分子生物学会	SOCS-3 と DP-1 の相互作用による細胞周期調節機構の解析	2008年12月12日																																							
小島裕久	日本分子生物学会	SOCS-7 は NF- $\kappa$ B シグナル活性化因子 TRIP6 と相互作用しそのシグナルを負に制御する	2008年12月12日																																							
双津牧雄	日本分子生物学会	Erk2 によるヒト SOCS-3 の S159 のリン酸化と JAK-STAT シグナル伝達系制御	2008年12月12日																																							
上谷能彬	日本分子生物学会	細胞周期調節性転写因子 DP-1 のプロテアソーム系を介する自己分解機構	2008年12月12日																																							
舩廣善和	日本農芸化学会	細胞膜透過性タグ融合サイトカインシグナル抑制因子 SOCS-2 の大腸菌による発現系の確立	2009年3月29日																																							
尾勝圭	日本農芸化学会	サイトカインシグナル抑制因子 SOCS-7 の新規機能の解析：TRIAD3 は SOCS-7 の新たな相互作用因子である	2009年3月28日																																							
荒川貴史	日本農芸化学会	細胞周期調節性転写因子 DP-1 のプロテアソームを介する分解機構；その分解制御領域 Stabilon 及び Degron の固定	2009年3月29日																																							
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舩廣善和</td> <td>SOCS-3 inhibits E2F/DP-1 transcriptional activity and cell cycle progression via interaction with DP-1.</td> <td>283・46</td> <td>2008年11月</td> <td>The Journal of Biological Chemistry アメリカ生化学会誌</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	舩廣善和	SOCS-3 inhibits E2F/DP-1 transcriptional activity and cell cycle progression via interaction with DP-1.	283・46	2008年11月	The Journal of Biological Chemistry アメリカ生化学会誌																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																						
舩廣善和	SOCS-3 inhibits E2F/DP-1 transcriptional activity and cell cycle progression via interaction with DP-1.	283・46	2008年11月	The Journal of Biological Chemistry アメリカ生化学会誌																																						

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
平成21年度、22年度、科学研究費補助金、若手(A)、研究課題名「癌抑制のための腫瘍関連因子活性調節系の確立」			
(他の研究への発展)			
(その他)			